

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による入居者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、入居者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 21 年 1 月 15 日									
法人名	社会福祉法人ラポール会									
代表者(理事長)名	辻 君子									
介護保険事業所番号	2	7	7	0	7	0	1	0	4	7
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	くみのき苑グループホーム千寿									
事業所所在地	大阪府河内長野市木戸2丁目33-5									
記入担当者職・氏名	(職) リーダー (氏名) 鬼頭 美由紀									
連絡先電話番号	0721-50-1151									

自己評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 入居者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【地域の中で当たり前暮らし】と【人間の尊厳を大切に】を理念としている。	○ 理念をもう少し具体的にし、全職員が理解しやすく、実行しやすい内容に変えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、全職員に年度初めの全体会議で話で説明し、理念を周知してもらっている。理念を基に、事業計画をたてているが、今年度は実施出来ていない。	○ 特に新人職員に周知してもらって、入職研修にカリキュラムに組み込んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	平成19年より自治会に加入し、自治会議や自治会行事に参加し交流を図るようにしている。	○ 近隣住民が気軽によって頂ける様な行事等、取り組みを考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時に近隣の方に対しての挨拶を心がけている。	○ 自治会への加入や施設や入居者への関係作りに取り組んでいる中で、次の段階として、気軽に立ち寄って頂ける関係を目指した取り組みをしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入することが、近隣住民の方との交流の場とし、地蔵盆・秋祭り・もちつき大会などに参加している。	○ 入居者と地域の方との関係のパイプラインになれる様に、まずは、全職員が地域の方に覚えて頂く必要がある為、地域の掃除や夜警等、に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会行事に参加した際に、認知症についての相談や、介護保険について等の話している。	○	左記の事を継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果表を全職員に伝えているが、全ての事を具体的に改善策を立てて取り組めていないが、日誌の記入方法を完結に記入できるように変更した。	○	今後も負担が軽減出来、尚且つ効率よい方法等あれば検討し変更していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろの様子や行っているケアを話すも、家族様からの意見があまり出ていない。出た意見に対して、その場や会議で話し合い、朝礼で職員やリーダーに伝えている。	○	家族、地域の方々が意見が出やすい雰囲気作りやテーマを考えて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所での会議や勉強会に参加している。	○	左記の事を継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて支援する様にはしているが、勉強会等は開催していない。	○	外部研修に参加した職員から、参加できなかった職員に対してフィードバック研修を行ってきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設での出来事や、新聞・テレビなどの情報は朝礼で報告したり、書面にて配布している。	○	グループホーム内で起こりうる虐待や認知症高齢者の事象事例等を用い研修会を行いたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要事項は、読み上げて説明をしている。不明点や不安な点があれば、いつでも相談頂ければと、家族様にて伝えている。	○	左記の事を継続していきたい。
13	○運営に関する入居者意見の反映 入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活での入居者が何を望んでいるか意見、不満、苦情に耳を傾けるように指導している。出た意見は必ず上司に報告し日誌にそういう内容があれば上司も入居者と話す機会をつくっている。	○	左記の事を継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や受診前後等、個々に報告している。	○	左記の事を継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、各階に、意見箱を設置している。頂いた意見を苦情受付表に記入し果然さくを考え、各階に伝えている。	○	左記の事を継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時もしくは必要に応じて意見や提案を聞く機会を設けている。	○	左記の事を継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基準を満たすように、話し合い、勤務調整は行っている。	○	左記の事を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については、職員の性格や入居者の方への相性等考え、最小限の異動にしてる。	○	左記の事を継続していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が、自分の目標を定め、個々の課題に意欲的に取り組みことで、能力開発を目指し、人材育成につとめている。内部研修や外部研修があれば、積極的に参加できる様にしている。	○	左記の事を継続していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設でグループホームの勉強会を行い、他のグループホームの方たちと交流する機会を設けている。地域ネットワーク会議にも参加してる。	○	左記の事を継続していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、リーダーは、定期的に4ヶ月に1回、話が聞ける様に面接をおこなっている。	○	左記の事を継続していきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回人事考課を行い、それを基に面談をおこなっている。その際に目標を立ててもらったり上司から提案したりし、取り組んでもらっている。	○	左記の事を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から何度か事前に話を聞かして頂き、面接時や見学時に、本人にも聞く機会を作っている。	○ 左記の事を継続していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学、面接の際や契約時に聞かせて頂いている。随時、電話にて受け付けている事も伝えている。	○ 左記の事を継続していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に、本人の状況、ご家族の状況を聞き必要な支援を検討している。	○ 左記に同様、支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、必ず本人が可能な限り、一度見学か遊びに来て頂く様に声はかけている。	○ 入居されるまでに、家族と本人の時間と身体的負担のない範囲で、何度か来苑して頂きながら、他の入居者とも、コミュニケーションが図れるようなことも考えていきたい。ショートステイも活用していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員により力差がある。本人の気持ちを考え、行動して行く様に伝えているが、理解不足で出来ない。職員の考えをおしつけている。	○ 職員が入居者さんから学ぼうとする気持ちを感じて個々に支え合える人になってもらえるように引き続き指導していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	新しい職員に変わっている為、家族とは話す機会も少なく関係が築けていない。	○	家族の心配されている気持ちを職員が気を配っていく。家族に対して全職員が入居者の説明が出来るように家族ノートに聞いていた事・伝えた情報を全職員把握する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の意見、希望を相談しながら現状を報告。理解を頂けるように行っているが、伝えられていない部分がある。	○	面会だけではなく、家族へ入居者が手紙や電話で連絡できる関係を作っていきたい。面会に来れない家族に心配かけない為に、こまめに連絡し入居者の状況説明を行っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・近隣の方に手紙を書いたり、行事がある場合案内を出し、参加していただけるように努めている。	○	左記の事を継続し、情報交換を職員間、上司に報告でき前向きに行動できるように取り組んでいきたい。
31	○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握しているが迅速な対応が出来ていない。	○	職員が入居者の対応に追いつけていない。はやめに気づき、この先に何が起こる可能性があるかを瞬時に読めるように一人ひとりレベルアップしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	連絡するきっかけがなく、関係を保てていない。	○	退所された家族が気軽に来苑出来る環境・関係を築いていけるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症ケア、グループホームについて勤務する前に職員はどうあるべきかを説明し、資料を渡しているが、新しい職員が多く理解出来ていない。	○	日々の暮らし、入居者の生活についてグループホームとは・入居者の日々の生活に職員がどう関わっていくべきか職員一人ひとり考え、勉強会の参加、会議の参加に進んで出るようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を把握しておくよう、個人ファイルを必読するように全職員へ伝えている。家族に理解頂いて以前の話は聞けているが、全職員が把握出来ていない。	○	無駄にならないように、なぜ生活歴が必要なのか全職員に把握させ指導していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	過去の生活歴も把握出来ておらず、職員が業務的に考えている為、心身状態まで把握出来ていない。	○	個々にあう状態を再度理解していく為、情報等見直し現状と比較後話し合いをし、実施したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が入居者に関わる日々の情報も少なく、ユニット会議で話し合う情報も少ない。新人職員が多く情報より感想的になっている。本人・家族の希望を活かせていない。	○	新しい職員は自己判断で理解しないように指導していきたい。古い職員は本人の日々の生活と家族の意見を踏まえた意見・アイデアを生かせる意見を出せるよう指導していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	話し合いをして会議録としては計画を立てているが、変化に気づき話し合いをもてていない。	○	話し合いを持ち変化があった場合には細かな所まで計画を立てる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録変更後、記入の勉強会を開催したがほとんどの職員はきちんと記入出来ていない。どの部分を記入し、なぜ記入しなければいけないのかも、理解できていない。	○	記録をなぜ書くのか、記録を書く必要性について、もう一度、指導し、理解してもらおう。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新しい職員が多く、グループホームの理解不足で入居者に日々の生活で買い物や外出、娯楽に誘えていない。職員には、本人が希望されれば出来る限り希望にそってしてほしいことを指導しているが、出来ていない。	○	職員一人ひとりがグループホームを理解し、入居者にどんな日々を過ごしていただきたいのか、日々どう過ごすべきなのか、全職員に把握させ指導していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に積極的に参加をしている。また、年2回避難訓練を消防署の協力を得て実施している。	○	左記の事を継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者と相談し情報を得てサービスの向上に努めている。（訪問散髪等）	○	左記の事を継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族の希望が現在ない。	○	今後、希望があれば迅速に対応したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、協力医療機関だけでなく、本人や家族の希望されている医療機関とも連携をとっている。	○	左記の事を継続していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1回、専門医の診察を受けている。	○	かかりつけ医として、入居者全員診察して頂き、職員が、ドクターへ入居者の日々の様子を話し、指示、判断をしていただいている。
45 ○看護職との協働 入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制の中で、看護師が入居者の日常の健康管理に努めている。	○	看護師に入居者に体調不良や、服薬の相談、他受診について相談している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した際、医療機関と情報を交換し、退院に向けての準備や、その後の対応に備えている。	○	病院・家族との連絡を取り合っている。左記の事を継続し、取組んでいきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態に合わせて、家族と相談し、重度にもなう、今後の対応に備えている。	○	職員の医学的知識や終末期の知識をつけないと行けない為、勉強会や指導を行いたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の方が、現状いてない。	○	今後、他の階の終末ケアを参考にし、入居者の方一人ひとりにあったケアや医療面のケアが行える様にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の最新のケア記録や、転居施設のケアマネと現場のリーダーと本人と直接会っている。その後、職員同士で気を付けることや、本人の詳しい情報を伝えている。	○	左記の事を継続し、情報交換を職員間、上司に報告でき前向きに行動できるように取り組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けが同世代と同じ話し方になっている。指導しているが、職員によって、時間経つと同じ状態であり、出来ていない。	○	理解出来ていない職員を、まず指導して徹底させる。
51	○入居者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の力不足や理解不足で、出来ないことはすぐに職員が行っている。	○	認知症ケアの基礎を理解できていない為、そこを指導する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちやサインを読み取って、職員どう動くのか朝礼後話し合う時間とっているが、業務優先に自然となっている状況にあり、職員ペースに物事を考えてしまっている。	○	職員ペースになっているのは何処か話し合い、原因を職員同志で話し合い解決策をマニュアルにする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人と一緒に本氏が着たい服を選んで頂ける様、声掛けするように指導している。が、服が破れていたり、着崩れていても着替えなす事を職員意識していない。	○	解決策をマニュアルにし、徹底させる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員により料理を職員が一人で作ったり、洗い物を一人でしている。入居者で、声掛けで出来る方にしか声を掛けていない。グループホームでは何故料理を作っているのか、理解不足でしてあげるケアになっている	○	認知症ケアやグループホームの知識を勉強してもらおう。日々指導していく。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者と買い物時に好きな物を選んで貰っている。個人で希望された時、本人と買い物に出かける様にしているが、当日無理な場合、後日買いに行く様、出来るだけ誘う様にしている。	○	全職員に引き続き徹底する様指導していく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員によって差がある。排泄の時間も把握出来ていないことがある。(時間があいている・排泄表の記入漏れ。トイレに誘うのを忘れている。)	○	排泄を常に把握しておくように各職員に指導し、漏れをなくしていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の状況や業務で決めている。	○	なぜ職員の都合になっているのか、今出来てない事をどうしていくかを話し合い決める。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者が眠れずに何度も起きて来られると、「夜なので寝て下さい」と言う職員もおおり、気持ちよく眠れるように状況に応じた対応が出来てない。	○	入居者の生活習慣、一人ひとりの安心が何か、眠れないのはどうしてなのか、を職員が考えられるように指導していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が本人の好きな事、得意としていた事の理解不足で、本人に楽しんで頂ける時間を作れていない。生活歴の認識不足で出来ていない。	○	入居者の性格や、過去の情報を知り、何に対しての支援をするべきなのか、情報交換を職員同士行い、実行していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にお金を払ってもらったり、本人のお金で支払ってもらっている。	○	左記の事を継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間があっても、職員より誘う事や、職員によっては誘うことをしていない。職員の時間の都合や、外出することへの意味を理解出来ていない。	○	生活支援について全職員に話し合う場を設け、気づいてもらい、理解してもらおう。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ行ける様に計画を立て、本人の希望に添える様に家族とも連絡を取り、情報を集め、計画書作成し行っている。	○	入居者に全職員が希望に添える計画を立てれるように指導して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に電話の希望があれば、して頂いている。毎年賀状を本人と記入し、家族に送っている。	○	イベント以外でも、普段から手紙、電話で入居者と家族が話せるように支援して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が面会されても、居室でしか話しされていない。リビングでも気楽に話して頂ける環境に職員が気がつけていない。	○	リビングでも気軽に過ごせ、話せる様に環境や、職員に意識する様に指導して行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、全職員に説明をしているが、理解不足の対応にて態度・言葉による拘束に繋がっていることがある。	○	現場での言葉・態度・行動について会議で勉強していく。それまでに、その場で指導していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	職員に決まりを作らせ、徹底するように取り組んでいきたい。
67	<p>○入居者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	決まり事を徹底できるような仕組みを考えたい。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	危険であるという認識が低い為、その場で注意を促す。日々の状況や入居者の状態で考えられる危険性を周知させたい。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	左記の事を継続し、情報交換を職員間、上司に報告でき前向きに行動できるように取り組んでいきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	左記の事を継続し、情報交換を職員間、上司に報告し、前向きに行動できるように取り組んでいきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		左記の事を継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	身体の状況は面会時には説明しているがリスクについては、説明や話し合いが、きちんと出来る職員が少ない。	○	常勤・非常勤係わらず、できる様にしていきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員によって状態変化に、迅速に気がついていない場合があり、気が付いていても、状態に応じた動きができていない。	○	起こった状態をケース記録に記入し、毎回変化・異変について話し合う。マニュアルを記録であげる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬用紙を作成しているが、用法や量、目的などの理解が低い。	○	病気歴やなぜ服用していくのか、薬・病気に対する知識、責任不足。入居者の病気理解のため徹底できる仕組みを考えたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	考えたり、工夫や防止を意識する能力が低い。指示なしでは出来ない職員もいる。	○	便秘や排便の大切さを理解してもらう為、資料を基にどう支援するかきめる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアはしているが、一人ひとりにあった支援ができていない。	○	入居者、一人ずつにあった支援の仕方をきめる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェック欄を作っているが、数値だけで状態の把握や変化に合わせての対応が十分ではない。	○	個々に合う状態について話し合い、実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	研修や勉強会、ユニット会議で、職員に説明し、予防策をたて、実行している。	○	職員により対応や対策が徹底出来ていない為、全員ができる様にしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員各自に作成したマニュアルを渡し、説明しているが、職員によって徹底出来ていないことがある。	○	決まり事を徹底出来る様な仕組みを考えたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を担当者を決め和のイメージに手作りできたりかかってくれた。結果柔らかい玄関になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なふいんきまで取組もうとしているが、なかなかできていない。	○	広い空間になっており、生活感がない。メリハリを場所によって工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置はしているが、入居者がくつろぐ為よりも、行き場所がない為に過ごしている。	○	リビングでは個人で落ち着いた時間もなく、ソファでは寝ていたり、一人になっている。配置を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に入所時に持ってきて頂くように話をしている。入所後も、本人の状態に合わせて、もって来て頂けるように話をしている。	○	まだ、さむぎむしており、好みを聞いて家族に相談しふやしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の状況に応じてこまめに行っている	食事作り時には換気を行っているが、肌寒くなった場合、温度調節を職員によって気付ける職員に違いがあり、できていない。	○	徹底する様に指導する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が使用したい時に使えるように目につくところにおいたり手に取りやすい場所に置くようにしている。	○	引出の色を変えたり目印をつけ、もっと物の場所がわかりやすくしたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の精神状態や能力について、職員の意識の低さによって自立した生活の支援が十分ではない。	○	個々にあったケアができるよう、入居者が力を活かせる部分のケアの仕方を決める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花・玄関前に野菜を育てている。	○	同フロアーのみの活動になっており他フロアーの入居者との交流を増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		
88	職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者の <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	入居者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	入居者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者が <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	入居者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者が <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	入居者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者が <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	入居者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者が <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	入居者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての入居者が <input type="radio"/> ②入居者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③入居者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、入居者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、入居者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)